

# DX 戦略書

## 桜野診療所のパーパス（社会にとっての存在価値）

糸島の「健康の灯台」

## 経営ビジョン（パーパス実現の過程において目指す姿）

多職種の専門家とデジタルを前提とした連携を行うことで  
患者さんやご家族の要望に応じた医療を提供する

### ▶ トップメッセージ

医療法人桜野診療所は、福岡県糸島市で 1989 年に創業し、現在は「さくらのクリニック」、「みんなのクリニック」、「ひめしまクリニック」の 3 つのクリニックを運営しています。地域の皆様に寄り添い、「患者さんを総合的にサポートできるかかりつけ医になる」というミッションを掲げ、これまで質の高い医療を提供してまいりました。

近年、地域医療の分野では在宅医療が注目されています。訪問診療を行う医師の高齢化や医師の専門性の高まりから、総合的な診療が難しくなり、かかりつけ医の数は減少しています。一方で、在宅医療ニーズは今後増加する見込みであり、訪問看護ステーションの増加からもその需要が窺えます。また、在宅死数の増加や、大家族から核家族への変化による在宅での介護者不足に伴って、在宅医療に関連するビジネスも拡大しています。ただし、医師と家族の直接的な対話が少なくなり、介在する施設の存在により家族の意向が把握しにくくなっています。その他、独居老人の増加や 8050 問題も深刻化しており、老老介護の課題も浮き彫りになっています。これらの課題に対して、より良い在宅医療の実現に向けた取り組みが求められています。

近年のデジタル技術の進化は、医療分野に多くの価値をもたらしました。電子カルテやスマートデバイス、手術支援ロボット、遠隔医療などがその代表です。特に ICT 分野では、様々な職種の連携を可能にする環境が整っており、私たちは「多職種連携」を強化していこうと考えています。

具体的には、患者さんのバイタルや看護記録などをクラウド上でデジタル化し、多職種の専門家がリアルタイムに正確な情報を共有することで、患者さんの病気だけでなく、心の負担にも真摯に向き合える体制を整えていきます。私たちは症状だけではなく、患者さん一人ひとりの心の声に耳を傾け、不安を診る医療を提供し、心と体の両面から地域の患者さんをサポートしていきます。

桜野診療所は糸島の「健康の灯台」であり、患者さんや地域社会に安心と希望をもたらす存在です。地域の「みんな」に頼っていただき、「みんなのかかりつけ医」というブランドのファンを増やすことによって、「競争のためのブランド」から「共創のためのブランド」へ変革し、他の地域における医療を担う方々とも垣根を越えて「地域医療のあるべき姿」を共にアップデートしていけるような取り組みに発展させたいと願い、この DX 戦略書を策定しました。

2024 年 1 月 20 日

医療法人桜野診療所  
理事長 佐々木 隆光

## ➤ DX 戦略

当法人は、経営ビジョンである「多職種の専門家とデジタルを前提とした連携を行うことで患者さんやご家族の要望に応じた医療を提供する」ことを実現するために、以下のようなマイルストーンを定め、3段階に分けてDX戦略を立案しました。

### <マイルストーン>

- ・フェーズ1/情報のデジタル化 [ 2023年4月～2024年12月 ]  
(概要) 従来の業務プロセスにデジタル技術を取り入れ、業務効率化や業務改善を実現する  
(詳細) 2023年4月: クラウド勤怠管理システムの利用開始  
2023年7月: グループウェアの導入  
2024年4月: 訪問診療支援システムの構築を開始
- ・フェーズ2/業務プロセスのデジタル化 [ 2025年1月～2026年12月 ]  
(概要) デジタル技術を活用して、従来のビジネスプロセスやワークスタイルを変革する  
(詳細) 2025年1月: 訪問診療支援システムの院内利用開始  
データ分析と活用を強化し、患者さんの傾向やパターンの把握、訪問診療の効率化や最適化を目指す
- ・フェーズ3/ビジネスのデジタル化 [ 2027年1月～2028年12月 ]  
(概要) 事業環境の変化に適応し、デジタルを前提としたビジネスモデルを創造する  
(詳細) 2027年1月: 訪問診療支援システムの外部利用開始  
訪問看護ステーション、訪問薬剤師、ケアマネジャー、連携病院、高次医療機関等の多職種とのつながりをデジタル上にプラットフォーム化

### <推進体制>

理事長直下に「DX推進部門」を設置し、統括事務長を主担当とし各部門より選出された推進員とともにDXを推進する。また、外部専門家や金融機関とも連携を進め、国や自治体の助言も受けながら取り組むこととする。

- ・プロジェクトオーナー: 理事長 佐々木 隆光
- ・プロジェクトマネージャー: 統括事務長 中尾 明日彩
- ・プロジェクトマネジメントオフィサー: 福岡銀行ソリューション営業部 植木 尚之 (ITコーディネータ)

### <人材育成・確保>

「桜野DXプロジェクト」及び「訪問診療デジタル化(DT)プロジェクト」というクリニック横断的な2つのプロジェクトにより、それぞれの分野、業務のチーム内での情報共有を行い、適正なデジタルツールの選定や検討をプロジェクト内で行うことで、デジタル化に対応できる人材を育成していく。

<最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策>

当法人は、経営ビジョンに沿った DX 戦略を達成するために、以下のようなデジタルにおける環境整備を推進し、毎年売上の 1.0%をデジタル投資する。

- ・クラウドファーストで社内システムを再構築
  - 法対応含め常に最新の状態を維持
  - ダッシュボード機能でリアルタイムに自社の状況を把握
  - グループウェア等の情報共有基盤を整備することで社内の情報格差を排除
- ・全従業員へのデバイス（PC・タブレット等）の貸与

➤ DX 戦略推進管理体制

- ・ KGI（非開示）達成に向けた KPI（～2028年6月期）
  - 付加価値額：年率平均 3.0%以上の増加
  - 従業員 1 名あたりの付加価値額（労働生産性）：年率平均 3.0%以上の増加
- ・戦略の進捗状況を管理するための仕組み
  - 毎事業年度の終了後、KPI の達成状況を確認する
  - 具体的には、あらかじめ設定した KPI と実測値との差異分析を実施
  - その結果に対する原因分析を行うことで戦略の実現性を評価する
  - さらにそこから導出される問題点を抽出し、解決方針を明らかにする